

令和 6 年度 内部質保証 目標・計画シート （教育研究推進委員会）								
委員会・組織名 臨床1 卒後臨床研修センター			※1該当事項 ①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。					
中間責任者②（部長・委員長等）氏名 伊藤 量基			※2 評価 S：優れて達成している A：やや優れて達成している B：概ね達成している C：やや達成が不十分 D：全く達成できていない					
	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画(具体的、かつ実現可能なもの)	該当事項(※1)	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
			途中経過・状況	評価(※2)	部門講評		評価(5段階)	講評
当初	目標・計画 (5つまで)							
	1 卒後臨床研修評価機構による第三者評価受審後の指摘事項の改善及び次年度の訪問調査に向けた研修プログラムの充実（附属病院）、並びに第三者評価(書面調査)に向けた受審準備（総合医療センター）に取り組む。	②③⑤	附属：翌年度の訪問調査を見据えた取り組みを開始。 総合：書面更新調査に向け書類作成等を実施中。	S	附属：CPC開催回数不足の指摘を受け、病理診断科協力のもと、研修医のCPC参加体制を見直し、11月より運用を開始するなどの改善を図った。 総合：書面更新調査を受審し、認定基準を達成していることを証する2025年1月1日付の認定証を受領した。	最終報告を待つ。	S	目標を達成したことは大いに評価できる。
	2 診療科と連携し、基本的臨床能力評価試験結果に基づいた臨床研修プログラムの改善を実施し、試験結果の向上に努める。	②③	「今日の臨床サポート」を活用して55症例レポートを作成することを研修医に義務付け、臨床能力・試験向上の一助とする。	B	①10月18日に研修医を対象とした「今日の臨床サポート」についての説明会を実施し、各ガイドラインを参照して症例レポートを作成することについて再周知した。 ②今年度の基本的臨床能力評価試験日は1月21日、22日、結果は2月末に判明予定である。	研修医に義務付けた結果の評価を待つ。	C	「今日の臨床サポート」を活用し臨床能力の向上を図る仕組みづくりはできたものの、試験結果は芳しくなかった。今後、更なる取り組みに期待する。
	3 研修医と指導医との懇談会を年3回程度開催し、臨床研修医の意見をくみ上げ、より充実した臨床研修が本学で実施出来るよう改善を図る。	④	附属は年3回(8/17,11/16,1/18)開催予定、総合は10月又は11月開催に向け調整中。同会の結果を元に研修環境改善に努める。	A	附属で3回(8/17,11/16,1/18)、総合で1回(11/30)開催した。各科の指導体制に関する研修医からの要望、カルテ記載や出退勤に関する指導医からの要望等について率直な意見交換を行った。このことを受け、改善要望の声が多い「軽症・中等症当直システムにおける連絡内容の見直し」などの研修環境の改善に着手した。	最終報告を待つ。	A	研修医、指導医双方からの意見を聞き取り、指導体制改善に向け取り組むことができた。今後、更なる取り組みに期待する。
	4 診療科と連携し、研修医の出退勤及び残業時間の管理を行うことで、医師の働き方改革の適正実施に努める。	②	出退勤打刻徹底のためセンター長名の注意文書を発出した。出退勤打刻不徹底が継続する場合は研修医に対しては面談を実施予定。	B	10月18日に全研修医を招集し改めて「出退勤打刻を徹底すること」と「勤務時間内は研修に励むこと」について指導を行った。その結果、研修医の出退勤打刻率が向上し、研修医の勤務実態把握に繋がった。	最終報告を待つ。	B	一部の研修医において、モラル低下が見受けられることから、今後更なる指導を求める。
	5 KMUSCの予約方法や機器管理について管理システムの基盤構築に取り組む	②	業者選定に必要な提案書の提出を受けシステム導入に向け検討を開始した。	B	11月に業者が決定し、3月末導入に向けて着々と作業を進めている段階である。	最終報告を待つ。	B	次年度当初から管理システムが運用できるよう、整備を進められたい。
期中追加 目標・計画								